

音楽センター改修は困難

高崎市

場所移し新施設

市議会に提示 整備室を新設 15年度完成目指す

群馬音楽センターの建て替えを検討してきた高崎市は、音楽センターとは別に新たなコンサートホールを建設する方針を決め、整備室を3日の市議会総務常任委員会に示した。JR高崎駅周辺の公有地を活用する考え。2010年度中に基本構想を策定、合併特例債の利用期限となる15年度の完成を目指す。完成後も音楽センターの施設を保存・活用するかどうかは、新ホールと切り離して検討する。

駅周辺の公有地活用

整備案は庁内組織「芸術・コンサートホール建設検討プロジェクトチーム」(会長・曾根豊市長公室長)が作成。①音楽や演劇など幅広い用途に使用できる多目的ホール②群馬交響楽団など優れたクラシック音楽に対応可能③大ホールの規模は1800〜2000席(音楽センターは1932席)などを打ち出した。

市は新年度の機構改革で新ホール整備事業を担当する「都市集客施設整備室」を新設し、案をたたき台に市民意見を聞いた上で基本構想をまとめる。街づくりと絡めて建設場所を選定するほか、コンベンション施設の併設なども検討する。建設場所は交通アクセスや経費節減面から、音楽センターに近いもてなし広

場、JR高崎駅東口の栄町駐車場、競馬場跡地などが候補に挙がっている。

建設費は100〜150億円を見込む。合併特例債が対象事業費の95%に充当でき、元利償還金の70%が地方交付税によって措置されることから、特例債の利用期限である15年度中の完成を目指す。

市は07年度にプロジェクトチームを設置。全面改修か新ホールの建設かを検討してきた。本年度、7カ月かけて建物の診断を実施した結果、音響や舞台設備の機能を高めたり、バリアフリー対策などの抜本的な改修を行うのは建物の構造上、困難なことが分かった。また、現在地での建て替えは、2〜3年間、施設利用

の空白期間が生じることから難しいと判断した。

木部純二副市長は「市の理念である交流と創造のまちづくりを実現する魅力的な新ホールを、地域の活性化につながる最も適切な場所に建設したい」と話している。

群馬音楽センターは世界的建築家、アントニン・レイモンドが設計し、1961年に完成した。建て替えが検討されていることから、08年6月に都内の建築士らが音楽センターの保存を求めて「群馬音楽センターを愛する会」を発足。開館50周年となる11年7月に、センターを客席数と同じ1932人の市民で取り囲む記念イベントを計画している。

隠居の思いつ記

号外！「音楽センター新設」(平成22年02月06日)

高崎市は、新しいコンサートホールを、音楽センターとは別の場所に建設する方針を決めたようです。

長い期間をかけて調査・検討し、市民の声も良く聞いていたという印象は持っていますので、悩んだ末の結論であろうと思っています。

気になるのは、「完成後も音楽センターの施設を保存・活用するかどうかは、新ホールと切り離して検討する。」という点です。

ぜひとも、いや、絶対に保存・活用すべきであると思っています。
高崎市の、数少ない誇るべき歴史遺産であります。
音楽センターを残さずして、どうして「音楽のある街」と言えましょう。
グンブロにも、こんな記事がエントリーされていました。

◇「高崎市の音楽センター、場所移し新施設 15年度完成」
(ようざん施設長さん)
◇「音楽の街!?(てっしーさん)」

実は、「隠居の思ひつ記」最初の投稿記事が、「音楽センター」でした。

そして翌日の投稿記事が、「音楽センター(2)」です。

平成十九年に高崎市産業活性化研究会が発行した、「集客力のある楽しいまちを創るために～高崎市中心市街地における都市観光～」という、提言書があります。

市商工部産業課が事務局となり、高崎経済大学地域政策学部の戸所隆教授が委員長になり、14名の委員が1年間かけてまとめたものです。

私個人は、この提言書の内容を高く評価しております。

提言書の中で、「音楽のある街づくり」については、次のような分析と提案をしています。
(若干、加筆・省略しています。)

1. 「音楽のある街」を謳う自治体は高崎市だけではない。(浜松市、川崎市、岩倉市、宝塚市、明石市、羽村市、野洲市、西宮市)

それらの自治体に対して、卓越化を図ることが求められる。

しかし、高崎市の音楽活動は、対外的にも、対内的にも十分認知されているとは言い難い。

高崎市民において「音楽のある街」が日常化していないのである。

2. 高崎市が「音楽のある街」を標榜するのであれば、日常的に生の音楽が街にあふれている状況の構築を目指す必要がある。

中心市街地にコンセプトを持たせて、「疑似テーマパーク化」させることが必要である。

3. 「音楽のある街」を可視化させるために、「音楽の街」たらしめている群響所属楽団員たちの練習風景を、気軽に見学できるような環境の創出をすべきである。

可能であれば、通りを歩く人の目に留まるようにするのが望ましい。

4. 高崎駅の中央コンコースなどに、群響の写真と解説を大々的に掲げるべきである。

また、群響のオリジナルグッズを駅構内売店で販売するようにする。

などなど、高崎の観光振興全般に対する的を射たアイデアが、具体的に提示されています。

一読する価値ありです。

「集客力のある楽しいまちを創るために～高崎市中心市街地における都市観光～」

繰り返しますが、音楽センターは「音楽の街記念館」としてでも、絶対に保存すべきです。

「ときの高崎市民、之を残す」と、後世に伝えて行きたいと考えます。